

株主のみなさまへ

第9期 決算のご報告

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで



企業理念

革新と成長

GS YUASAは、社員と企業の「革新と成長」を通じ、人と社会と地球環境に貢献します。

経営ビジョン

GS YUASAは、電池で培った先進のエネルギー技術で世界のお客様へ快適さと安心をお届けします。

経営方針

- 1 GS YUASAは、お客様を第一に考え、お客様から最初に選ばれる会社になります。
- 2 GS YUASAは、品質を重視し、環境と安全に配慮した製品とサービスを提供します。
- 3 GS YUASAは、法令を遵守し、透明性の高い公正な経営を実現します。



取締役社長
依田 誠

株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、平素は格別のご高配、ご支援を賜り有り難く厚く御礼申し上げます。

株主のみなさま方にはポーイングおよび三菱自動車工業(株)の事象につきまして、大変ご心配をおかけしておりますこと、申し訳なく存じます。当社グループといたしましては関係機関の調査に全面的に協力し、早期解決に向け総力をあげて取り組んでまいりますので、何卒ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

第9期のご報告

第9期(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の事業の概況ならびに決算の状況をご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国経済は、震災復興関連の

ためのインフラ復旧等を中心に国内需要は堅調に推移してきました。さらに昨年末の政権交代による経済、金融政策への期待感から円安、株高基調に転じるとともに、企業収益にも一部改善が見られるなど年度末にかけての景気は緩やかな回復基調へと転じました。

世界経済においても、米国では個人消費や住宅投資などが堅調に推移し、中国においても成長率鈍化が懸念される中、景気刺激策の効果などから景気の持ち直しが見られました。しかしながら、一方では中国における反日運動の影響や欧州における債務危機および経済情勢の悪化もあり、状況が大きく変化しながら経過しました。

このような経済状況の中、当社グループの当連結会計年度の売上高は、国内ではエコカー需要の増加や電力の全量買取制度などを背景に、新車用自動車電池や電源装置の販売が増加いたしました。欧州債務危機に起因する景気後退などにより欧州での販売が減少したこと、電気自動車向け車載用リチウムイオン電池の販売が減少したことなどにより、2,745億9百万円と、前連結会計年度に比べて109億24百万円減少(△3.8%)いたしました。

当連結会計年度の利益は、鉛電池を中心とした国内外の既存事業は堅調に推移いたしました。電気自動車向け車載用リチウムイオン電池の売上高の減少および償却費の増加などにより、営業利益は97億75百万円と、前連結会計年度に比べて62億55百万円減少(△39.0%)いたしました。これと同様に、経常利益は122億58百万円と、前連結会計年度に比べて57億32百万円減少(△31.9%)いたしました。当期純利益では、車載用リチウムイオン電

池設備の減損損失を計上したことや税金費用および少数株主損益を計上したことにより、57億67百万円と、前連結会計年度に比べて59億65百万円減少(△50.8%)いたしました。

なお、当期の期末配当金につきましては、当期の連結業績を鑑み、誠に遺憾ながら2円減配し、1株当たり6円とさせていただきますことをご報告申し上げます。

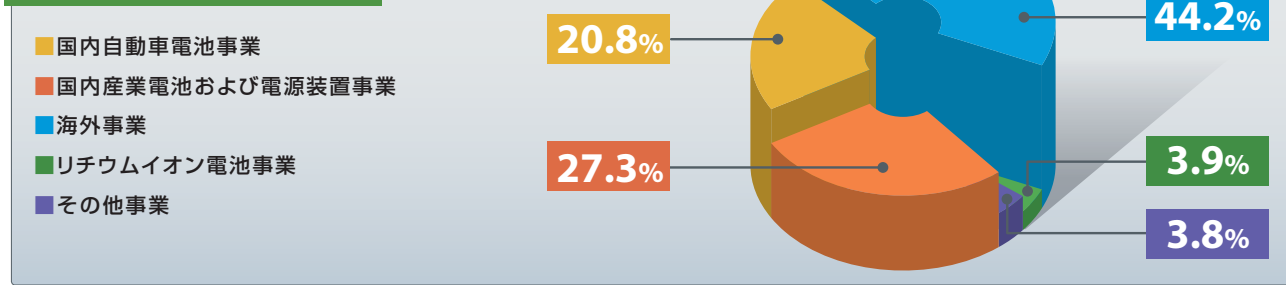
来期の見通し

今後のわが国経済は、震災復興の本格化や太陽光発電設備の需要拡大など景気の増勢が強まる期待要因がある一方で、4月からの電力料金値上げや円安による仕入コストの増大などの不安要因もあります。また、海外の主要地域の経済動向においては、米国経済は引き続き個人消費や住宅投資が堅調に推移していることなどから緩やかな回復基調にあります。一方、中国経済は輸出の回復などにより持ち直しの兆しが見られるものの回復力は依然として弱く先行きは不透明な状態にあります。欧州における債務問題についても引き続き懸念材料が多く、今後も予断を許さない状況で推移すると思われます。

このような経済状況において、当社グループは今後も引き続き国内既存事業の収益基盤の強化および中国、アジアを中心とした海外事業の拡大、リチウムイオン電池事業の収益力向上に取り組んでまいりますので、みなさま方の倍旧のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年6月

事業別売上高構成比



国内自動車電池事業

売上高は、アイドリングストップ車用およびハイブリッド車用を中心に新車用鉛電池が順調に売上を伸ばしましたが、補修用鉛電池および自動車関連部品が伸び悩み、569億94百万円と、前連結会計年度に比べて34億37百万円減少(△5.7%)いたしました。セグメント損益は、売上の減少および主原料の変動もあり、39億31百万円と、前連結会計年度に比べて3億35百万円減少(△7.9%)いたしました。

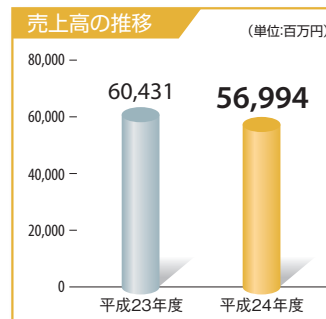
主要製品
自動車用、二輪車用鉛蓄電池／自動車関連機器



自動車用電池
「ECO.R Series NEO(エコアール シリーズ ネオ)」



補機用電池



国内産業電池および電源装置事業

売上高は、太陽光発電設備の需要が拡大したことや鉄道向けなどが好調に推移したこと、さらに前年は震災やタイの洪水の影響で落ち込んだ小型充電器の販売が、当年は回復したことなどにより、748億47百万円と、前連結会計年度に比べて40億97百万円増加(5.8%)いたしました。これに伴い、セグメント損益は、108億13百万円と、前連結会計年度に比べて11億73百万円増加(12.2%)いたしました。

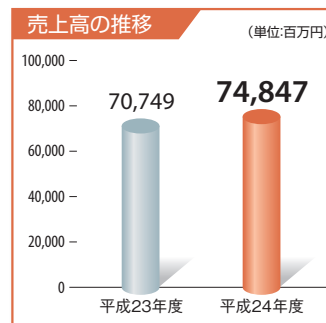
主要製品
据置用、車両用、電動車用、その他各種用途鉛蓄電池／小型鉛蓄電池／アルカリ蓄電池／ニッケル水素電池／整流器／汎用電源／その他各種電源装置



パワーコンディショナ
「ラインバックαⅢ」



汎用無停電電源装置(UPS)
「Acrostar THA1000-90-FCG」



海外事業

売上高は、北米での販売は増加したものの、主に欧州での販売が減少したことにより、1,212億82百万円と、前連結会計年度に比べて13億6百万円減少(△1.1%)いたしました。一方でセグメント損益は、主原料の鉛相場下落などにより、63億80百万円と、前連結会計年度に比べて3億74百万円増加(6.2%)いたしました。

主要製品

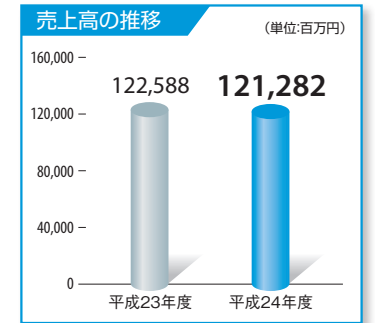
自動車用、二輪車用鉛蓄電池／据置用、電動車用鉛蓄電池／小型鉛蓄電池／ニッケル水素電池



欧州車専用自動車用電池
(湯浅蓄電池(順徳)有限公司製)



二輪車用電池



リチウムイオン電池事業

売上高は、主として電気自動車向けの販売数量の大幅な減少により、108億24百万円と、前連結会計年度に比べて103億82百万円減少(△49.0%)いたしました。セグメント損益は、売上高の減少に加え減価償却費負担などが増加した結果、112億49百万円の損失となり、前連結会計年度に比べて79億84百万円悪化いたしました。

主要製品

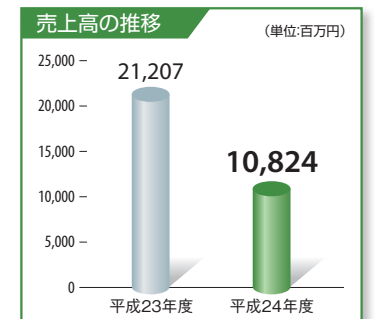
車載用、産業用リチウムイオン電池



ハイブリッド自動車用リチウムイオン電池
(株式会社ブルーエナジー製)



電気自動車用リチウムイオン電池
(株式会社ブルーエナジー ジャパン製)



その他事業

売上高は、主に施設照明の販売が減少したものの、衛星向け電池や特殊電池の販売が増加したことなどにより、105億61百万円と、前連結会計年度に比べて1億5百万円増加(1.0%)いたしました。全社費用等調整後のセグメント損益は、特殊電池の利益改善などにより1億円の損失と、前連結会計年度に比べて5億16百万円改善いたしました。

主要製品

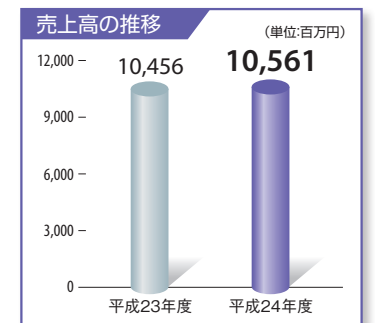
HID光源／各種照明器具／紫外線照射装置／電池関連機器／電池製造設備／環境関連機器／移動体通信用電池／その他各種用途電池



LED道路照明器具
「LEGA」



セラミックメタルハライドランプ
「エコセラII」



(注) その他事業に含まれるセグメント利益の調整額は△2,200百万円であり、セグメント間取引消去△1,288百万円、および各報告セグメントに配分していない全社費用△912百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

環境世紀に求められる蓄電技術でGSユアサは社会に貢献します。

21世紀は環境の世紀ともいわれています。石炭や石油などの化石燃料に頼ったエネルギーから再生可能エネルギーへの転換、温暖化防止にむけた温室効果ガスの削減など、

環境に配慮した社会をいかに実現するかが課題となっています。

その重要な鍵を握っているのが電気の効率的な利用です。

GSユアサグループは強みである蓄電技術を活かし、社会に寄与する製品の開発を行なっています。

GSユアサグループは蓄電池のほか、停電時に機能するバックアップ用の電源装置や電力を制御するパワーコンディショナなどの電源システム機器の開発も行ない、効率的な電力利用に貢献しています。

自動車・オートバイ用電池

産業用電池

電源システム

リチウムイオン電池

電気車用電池・充電器



暮らし

エコカーからスマートハウスまで環境・快適・安全・安心を提供

環境に配慮したアイドリングストップ車やハイブリッド車、電気自動車などエコカーの普及が進む中、GSユアサグループはそれぞれ専用の鉛電池やリチウムイオン電池を開発し、多くの自動車メーカーで採用されています。

産業

オフィス・工場のピークカットと防災対策、作業環境の改善に寄与

GSユアサグループは、夜間電力の活用、災害などによる停電時への対応ができる太陽光発電システムを提供し、電力のピークカットと防災対策に寄与しています。また、温室効果ガスの削減対策の一つとして工場、倉庫内において、導入が進む電動式フォークリフトに対しては、高性能の専用電池と専用充電器の開発も行なっています。

インフラ

蓄電・電力貯蔵・電力制御技術で環境社会の基盤整備に尽力

地域単位で効率的な電気の運用を図るスマートシティプランなど、環境社会の実現には社会インフラの整備が不可欠です。

GSユアサグループは、培ってきた蓄電技術や電力制御技術により、それら社会インフラの維持整備や効率的な運用に貢献しています。

GSユアサグループは環境対応型社会に 貢献するのが使命だと考えています。

鉄道関連分野



温室効果ガスの削減が求められる中、LRT(次世代型路面電車)をはじめ、公共交通機関である鉄道への関心が世界的に高まっています。当社グループでは、リチウムイオン電池を活用することで、より一層、環境に配慮した車両や駅の創出に貢献しています。

省エネや電力の有効活用で活躍するリチウムイオン電池

車両駆動用電池システム

平成24年10月、GSユアサグループの産業用リチウムイオン電池モジュール「LIM30H-8A」を活用した車両駆動用電池システムが、近畿車輛㈱の自己充電型バッテリー電車「Smart BEST」に採用されました。この車両は大容量のバッテリー電源で走行し、消費した電力だけを、小型ディーゼル発電機が補い充電するシステムです。

このシステムを検証するため、JR山陰本線で走行試験を行いました。



採用されたリチウムイオン電池モジュール「LIM30H-8A」



GSユアサグループの製品が採用された自己充電型バッテリー電車「Smart BEST」(近畿車輛㈱製)

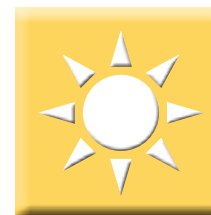
車両・駅 電力の蓄電システム

GSユアサグループは、リチウムイオン電池の蓄電技術を活かし、鉄道関連施設におけるエネルギーの有効活用にご貢献しています。太陽光発電で駅使用電力をまかなうJR東北本線 平泉駅に、余剰電力を蓄電し発電量が不足した際に供給を行なう蓄電システムを導入。また、東武東上線では、電車の制御時に発生する回生電力を蓄電し、加速時に供給を行なう回生電力貯蔵装置を導入しています。



「エコステ」モデル駅のJR東北本線 平泉駅に240kWhのリチウムイオン電池蓄電システムを導入

太陽光発電分野



GSユアサグループの太陽光発電への取り組みは古く、平成5年には電力の供給をコントロールする太陽光発電用パワーコンディショナの発売を開始しています。また、リチウムイオン電池の蓄電技術と組み合わせることにより、使用電力のピークカットやバックアップを可能にしています。

パワーコンディショナで自然エネルギーを有効にコントロール

太陽光発電は天候に左右され、電力供給の面では不安定な要素を抱えています。パワーコンディショナは、発電した電力を家庭で使える電気にする制御装置で、住宅から学校、病院、オフィス、工場、大型施設まで、太陽光発電を利用している建物で幅広く利用されています。

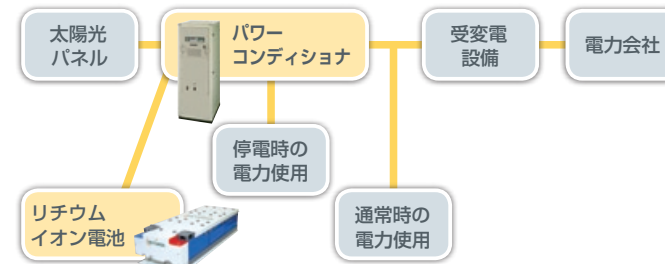
系統連系型太陽光発電システムでは、太陽光発電の発電量と使用電力量に応じて、電力会社との売買時の受送電を自動制御します。

リチウムイオン電池の蓄電設備と組み合わせたピークカットシステムは、夜間に電力会社から電力を購入、蓄電し、昼間は太陽光発電による電力と蓄電した電力を使用し、不足の場合のみ電力会社からの供給を受ける仕組みです。同じくリチウムイオン電池の蓄電設備と組み合わせた防災型太陽光発電システムは、通常時は自動で電力の売買を行ない、停電時には蓄電設備から供給を受ける仕組みとなっております。

系統連系型太陽光発電システム



ピークカットシステム&防災型太陽光発電システム



「第4回 GSユアサ 小学生ECO絵画コンクール」を開催

㈱ジーエス・ユアサ バッテリーは、自動車用電池業界の中でも早期に環境配慮型バッテリーの販売を推進し、平成21年度からは、次世代を担う子供たちが地球環境に対する考えを絵という表現を通じて人に伝える「GSユアサ小学生ECO絵画コンクール」を開催しています。4回目を迎えた平成24年度は、「夢あふれる、地球さんのココロ！～地球さんが思う、ステキな未来を絵にしてみよう～」をテーマに、全国各地から発想力豊かな786点の絵画のご応募をいただきました。応募作品の中から公平かつ厳正な審査により、神奈川県在住の小学5年生が描いた絵画「ぼくらは地球で生きている」が金賞に輝きました。応募作品には、独創性、環境への関心、未来への希望など気持ちのこもった作品が多く、環境に配慮した事業活動の重要性を再認識することができました。同社は、今後も継続して、同コンクールを開催していく予定です。



金賞作品「ぼくらは地球で生きている」

太陽光発電システムを用いて、子供たちにクリーンエネルギーを紹介

GSユアサグループでは、京都商工会議所と協力して、京都市内の小学生を対象に環境をテーマにした授業を平成15年度から継続して実施しています。この活動は、企業の環境技術を小学生に紹介することによって、環境問題全般に対する興味を深めることを目的としています。平成24年度は、京都市立紫竹小学校で実施し、太陽電池パネルを用いた発電の実験を行ない、昼間に発電した電気を夜間に有効利用できることを学習していただきました。

GSユアサグループでは、未来を担う子供たちに対して、今後も環境に関する啓発活動を継続して実施していきます。



▲太陽光発電システムについての学習



◀太陽電池パネルを使って発電する実験

「ECO.R LONG LIFE」(エコ.アール ロングライフ) シリーズを新発売

㈱ジーエス・ユアサ バッテリーは、先進のテクノロジーを搭載した自家用乗用車用高性能バッテリー「ECO.R LONG LIFE」(EL)シリーズを本年7月より発売いたします。

ELシリーズは、極板の高性能化による長寿命設計と充電能力の一層の向上により、従来品と比べ圧倒的な長寿命を実現するとともに、国内で初めて通常車とアイドリングストップ車(IS車)のどちらにも搭載が可能となりました(シリーズ内、一部製品を除く)。

近年、車両における低燃費化技術が急速に進み、中でもIS車は軽自動車を中心に急速に普及が拡大しており、バッテリーにおいても新たなニーズが生まれつつあります。

同社はこれらの新たなニーズにこたえ、より豊かなカーライフをご提供し、地球環境に貢献できるよう今後とも努めてまいります。



「ECO.R LONG LIFE(エコ.アール ロングライフ)」

ベトナム子会社の二輪車用鉛蓄電池生産能力を増強

ベトナム国の連結子会社ジーエス バッテリー ベトナム社(GSV社)は、ビンズン省の本社工場があるベトナム・シンガポール工業団地内に新たに二輪車用鉛蓄電池の組立工場用地を確保し、二輪車用鉛蓄電池の生産能力を倍増することに決定いたしました。

平成23年以降、ベトナム国の経済成長は鈍化しておりますが、二輪車の普及は衰えることなく、特に取り替え用電池を販売する補修市場は経済鈍化の影響を受けにくい安定した市場として成長を続けており、平成25年以降も補修市場における販売個数は増加が見込まれます。

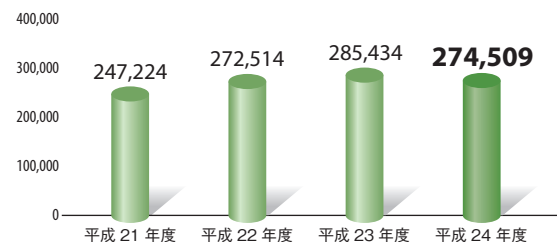
GSV社はそれら市場動向に対応するため、早急に増産体制を整えるため、順次生産能力を増強し、平成29年までに生産能力を倍増する計画です。なお、平成29年までの設備投資額は総額15億円を予定しております。



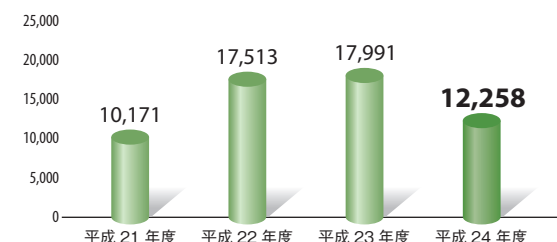
ジーエス バッテリー ベトナム社の外観写真

連結業績サマリー

売上高 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



当期純利益 (単位:百万円)



Point 1 総資産は、流動資産に含まれる有価証券を設備投資資金に充当するため取崩しましたが、車載用リチウムイオン電池生産にむけた新規設備投資による有形固定資産が増加したため、2,903億68百万円と、前連結会計年度末に比べて119億42百万円増加いたしました。

Point 2 負債は、設備関係支払手形が減少する一方で設備投資資金に充当する借入金が増加したため、1,491億79百万円と、前連結会計年度末に比べて69億74百万円増加いたしました。

Point 3 純資産は、配当金の支払いや少数株主持分の減少があったものの、当期純利益や為替換算調整勘定が増加したことにより、1,411億89百万円と、前連結会計年度末に比べて49億68百万円増加いたしました。

連結貸借対照表(要約) (単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成25年3月31日現在	平成24年3月31日現在
流動資産	128,703	136,685
固定資産	161,650	141,694
有形固定資産	115,037	101,502
無形固定資産	2,347	2,172
投資その他の資産	44,265	38,019
繰延資産	14	45
① 資産合計	290,368	278,426
流動負債	98,504	87,351
固定負債	50,674	54,852
② 負債合計	149,179	142,204
株主資本	122,559	120,105
資本金	33,021	33,021
資本剰余金	54,880	54,880
利益剰余金	34,974	32,516
自己株式	△ 315	△ 312
その他の包括利益累計額	2,792	△ 4,978
少数株主持分	15,836	21,094
③ 純資産合計	141,189	136,221
負債および純資産合計	290,368	278,426

連結損益計算書(要約) (単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
売上高	274,509	285,434
売上原価	214,159	219,994
売上総利益	60,350	65,440
販売費および一般管理費	50,575	49,409
営業利益	9,775	16,030
経常利益	12,258	17,991
当期純利益	5,767	11,733

連結キャッシュ・フロー計算書(要約) (単位:百万円)

科目	当期	前期
	平成24年4月1日から平成25年3月31日まで	平成23年4月1日から平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	19,069	8,287
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 29,249	△ 28,660
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,839	13,152
現金および現金同等物に係る換算差額	1,053	△ 333
現金および現金同等物の増減額	△ 5,286	△ 7,553
現金および現金同等物の期首残高	16,476	24,030
合併に伴う現金および現金同等物の増加額	20	—
現金および現金同等物の期末残高	11,210	16,476

連結株主資本等変動計算書 (平成24年4月1日から平成25年3月31日まで) (単位:百万円)

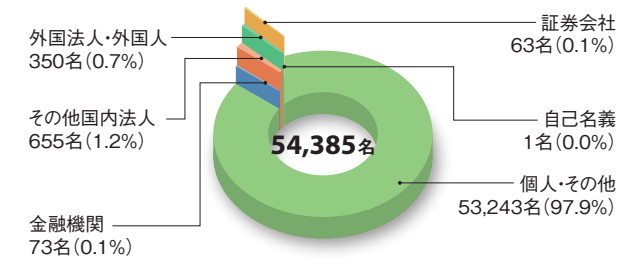
	株主資本					その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
平成24年4月1日残高	33,021	54,880	32,516	△ 312	120,105	5,365	68	1,400	△ 11,812	△ 4,978	21,094	136,221
当連結会計年度中の変動額												
剰余金の配当			△ 3,302		△ 3,302						—	△ 3,302
当期純利益			5,767		5,767						—	5,767
自己株式の取得				△ 3	△ 3						—	△ 3
合併による増加			20		20						—	20
土地再評価差額金の取崩			△ 27		△ 27						—	△ 27
株主資本以外の項目の当連結会計年度中の変動額(純額)					—	1,621	△ 130	27	6,253	7,771	△ 5,257	2,514
当連結会計年度中の変動額合計	—	—	2,457	△ 3	2,454	1,621	△ 130	27	6,253	7,771	△ 5,257	4,968
平成25年3月31日残高	33,021	54,880	34,974	△ 315	122,559	6,987	△ 62	1,427	△ 5,559	2,792	15,836	141,189

株式の状況 (平成25年 3月31日現在)

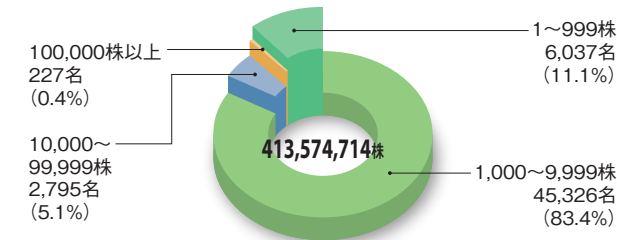
発行可能株式総数 1,400,000,000株
 発行済株式の総数 413,574,714株
 株主数 54,385名
 大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	17,684,000	4.28
明治安田生命保険(相)	14,000,000	3.39
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	13,118,000	3.17
高知信用金庫	11,334,000	2.74
日本生命保険(相)	11,181,669	2.70
トヨタ自動車(株)	11,180,400	2.70
(株)三菱東京UFJ銀行	9,327,335	2.26
(株)京都銀行	7,740,348	1.87
三井住友信託銀行(株)	7,354,000	1.78
(株)三井住友銀行	7,108,517	1.72

所有者別株主分布状況 (平成25年 3月31日現在)



所有株数別株主分布状況 (平成25年 3月31日現在)



会社の概要 (平成25年 3月31日現在)

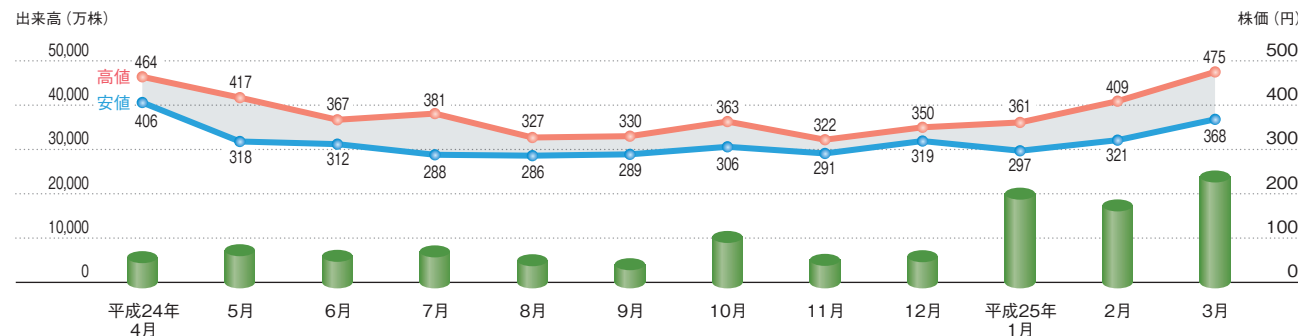
商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション GS Yuasa Corporation
事業目的	傘下のグループ企業全体の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	平成16年 4月 1日
資本金	33,021百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町 1 番地 電話 (075) 312-1211
ホームページアドレス	http://www.gs-yuasa.com/jp
上場金融商品取引所	東京証券取引所市場第 1 部 大阪証券取引所市場第 1 部

(注)東京証券取引所と大阪証券取引所の現物市場統合に伴ない、平成25年 7月16日から東京証券取引所市場第 1 部となる予定です。

役員 (平成25年 6月27日現在)

取締役社長 (代表取締役)	依田 誠
専務取締役 (代表取締役)	椎名 耕一
常務取締役	吉村 秀明
常務取締役	西田 啓
取締役	倉垣 雅英
取締役	辰巳 伸治
取締役	沢田 勝
取締役	中川 敏幸
取締役	坊本 亨
取締役	小西 弘祐
取締役	村尾 修
監査役(常勤)	前野 秀行
監査役(常勤)	落合 伸二
監査役(常勤)	小川 清
監査役	阿部 清司

株価および売買高の推移



(注)最高、最低株価および出来高は、東京証券取引所市場第 1 部におけるものであります。

(注)本報告書に記載の金額は表示単位未満を切り捨てて、比率は四捨五入しております。

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
基準日	定時株主総会および期末配当：毎年3月31日 中間配当：毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行なっております。
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ (http://www.gs-yuasa.com/jp/ir/index.asp) に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主インフォメーション

住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申出下さい。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出下さい。

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出下さい。

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行なう際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等に行なわれます。確定申告を行なう際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。

※確定申告をなされる株主さまは、大切に保管下さい。



株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション